

西成プラザ

生活困難支援の老舗西成での実践を世界発信

釜ヶ崎をはじめとする西成区北部には、社会的に有利でない状況が集積しています。釜ヶ崎の一角に集会・研修のスペースを持つ本プラザは、多くの公的組織、NPOと連携し、地域の諸活動に関わりながら、都市問題の本質を社会に伝える、実践的な研究ネットワークから構成されています。

調査と実践の社会実験道場

西成区には、日本最大の日雇労働者の集住する簡易宿所街、寄せ場のあいりん地域＝釜ヶ崎、日本最大の被差別部落の西成地区、在日コリアンの集住、日本でも最も高密度な木賃アパートの集中、かつての遊郭の系譜をひきつぐ料亭地区などが隣り合わせて分布しています。生活保護率の高さや平均余命の短さなどにおいても突出し、ホームレスや人権というグローバルな課題に、さまざまな人々や組織が、さまざまな関わりのもとで、取り組みを行っています。都市研究プラザもこうした組織のひとつであり、その中で西成プラザは、グローバルな知の構築が可能な空間＝西成区において、実践の社会実験道場という機能を果たしています。

2006年に活動を開始した大阪就労福祉居住問題調査研究会(<http://www.osaka-sfk.com/>)は、本誌別項で触れられています。釜ヶ崎の再生フォーラム10年誌編纂チームは、1999年から本格化したフォーラムの活動記録をまとめ、同時に1960年代はじめからの写真アーカイブ事業も行っています。本年度、居住サポート研究会(代表:水内)において、西成区全体の住宅市場の現状と居住サポートのあり方を調査しています。また、密集市街地研究会(調査代表:全)において、被差別部落や在日コリアン集住地区における居住福祉のあり方の調査を、刑余者支援ネットワーク(調査代表:水内)において、矯正施設退所者の地域居住支援ネットワーク構築のための調査を行っています。

■水内俊雄(都市研究プラザ教授)

OCA! シンポジウム アートの力を信じる。 +2U

釜ヶ崎でカフェと「カマン!メディアセンター」を運営し、活動しているアートNPOココルームとの協働の成果として、2010年1月23日(土)に「OCA!シンポジウム アートの力を信じる。～釜ヶ崎での取り組みを事例に、地域とアート、社会とアートのつながりをさぐる。そして、世界とであいなおす」というシンポジウムを浪速区のヒューマインドで開催した。

詩人の谷川俊太郎氏は釜ヶ崎を歩き、「路上」という詩作品をうみだした。また、ニューヨークからはスカイプを通して小沢健二氏(音楽家)による「アートという罫」について話がなされた。ここでは、権力にとって都合良くアートが社会包摂という言葉に包含されないよう注意深く呼びかけられ、アートの本質をさぐる内容となった。またイギリスからは、「ストリートワイズ・オペラ」のマット・ピーコック氏が登場し、昨夏、ブリティッシュ・カウンシル協力のワークショップに参加し、ミニオペラを作成した生活保護受給者の紙芝居劇「むすび」との音声による再会を果たした。参加者は300名、出演者やスタッフは80名ほどで、8時間半の長丁場にも関わらず、会場は集中力を失うことはなかった。会場後方の「おっちゃんカフェ」からはコーヒーや焼きおにぎりのにおいが漂い、あたたかい時間がながれた。 ■上田假奈代(都市研究プラザ研究補助スタッフ)



トークセッションで伸びをする会場風景